

## 令和4年度\_第1回全体構想改定部会部会\_議事録

日時： 令和5年2月22日 午後5時00分～午後6時30分

会場： 父島（村役場本庁舎2階会議室）、母島（オンライン開催 Webex）

出席： （以下敬称略）

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| 小笠原村観光協会            | 原田龍次郎     |
| 小笠原母島観光協会           | 向 哲嗣      |
| 小笠原村商工会             | 稲垣 武士     |
| 小笠原ホエールウォッチング協会     | 佐藤 博志     |
| 小笠原アイランズ農業協同組合      | 門 脇 修（欠席） |
| 小笠原島漁業協同組合          | 村上 玄朗（欠席） |
| 小笠原母島漁業協同組合         | 鮎川 貞史     |
| 小笠原海運株式会社           | 加藤 亨      |
| 小笠原野生生物研究会          | 島田 克己     |
| 小笠原自然観察指導員連絡会       | 深澤 丞      |
| 小笠原自然文化研究所          | 佐々木 哲朗    |
| エバーラスティングネイチャー      | 田中 秀侑     |
| 国交省小笠原総合事務所         | 永井 公彦     |
| 環境省小笠原自然保護官事務所      | 若松 佳紀     |
| 林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター | 尾山 真一     |
| 東京都小笠原支庁            | 寺尾 悟      |

事務局 小笠原村産業観光課 大津 源（部会長）  
小野寺 将嘉

【議事】（以下敬称略）

### 1. 小笠原村エコツーリズム推進全体構想改定に関する見直し作業等の進め方について

○資料（小笠原村エコツーリズム推進全体構想）に基づき、大津産業観光課長（部会長）から記載内容および、モニタリング結果等参考として今後修正が必要と思われる箇所について、各機関から意見徴取したい旨説明。

○原田

モニタリングを強調しているが、何か問題が生じているのか。

○大津

全体構想の46頁に自然観光資源に何らかの影響が生じた場合、根拠となるデータ等持ち寄り協議を行うとの記載あり、手続き的な話である。

○原田

この構想は観光振興を推進するためのもののはずだが、計画を示すだけで履行されていないのではないかと。様々な計画を立ててきたが予算の確保ができなかったため事業実施出来ていない。私は準備会の段階から予算の心配をし、予算確保について様々な提案をしてきたが成就されなかった。エコツーリズム法の下では事業を実施することが出来ない。様々な規制に傾いていき、手が付けられなくなった。予算確保できない中では、正しい事業が出来ない。モニタリング結果が出たとして、その指摘に対して、誰がどう対応していくのか。ガイド側はやることをやってきており、(モニタリング結果がでて)それに全て従うのはおかしいのではないかと。島民の生活・産業振興に悪影響を与えるものならば、何を言っても(規制しても)いいわけではない。小笠原諸島は全部自然保護区であり、その上で世界遺産の規制を強くしている。我々は今まで世界遺産になるための協力をしてきたが、道の整備すらできない状態の中で、これ以上どうすればいいのか。現在村職員とガイドで道の整備を行っているが、出来ることには限りがある。持続可能な観点で考えるのならば、持続可能になるように、規制する側にも協力してほしい。エコツーリズムの考え方は理解できるが、必要な事業実施が出来ないのでは意味がないのではないかと。そもそもこれは構想と言えるのか。島民に示した計画を推進し協力できる人が集まって行うべきである。モニタリング結果に対して、解決策を示してくれればよいと思うが、見直して何処に向かうのか。

○佐藤

それであれば、見直して構想をなくすのも見直しと言えるのではないかと。現在村で策定を進めている観光振興ビジョンもそうだが現場に降りて行かず形式だけが残ってしまう。この全体構想自体なにに活かされているのか。今の若いガイドは知らない方も多いのではないかと。必要な部分を残して、不要なところを削除して、頭でっかちにならないようにした方がよい。

○原田

実施するためのプランになっていない。整備管理しなかった責任を誰が負うのか。島民は全部受け入れてやってきている。決して自然保護に反対しているわけではない。

- 大津  
全体構想を見直していきたいと思っているが、エコツアーリズム協議会はこの全体構想を理念として、利用と保護を協議する場である。
- 原田  
諸々の事情は理解している。策定の際には各ルートを歩く等、協力してきた。記載内容は一般論で、エコツアーリズムとは、ということが記載されている。
- 大津  
現在は全体構想に掲載されていない自然観光資源について、今後利用出来るように追加する等もあるのではないかと。そういう意味でも時点修正を進めていきたい。
- 原田  
推進させるための起点になるのか。大した役に立っていないが、作らなければいけなかった事情は理解している。「こうしたい、こうするつもりで、ここを変更したい」等の提案が欲しい。
- 佐藤  
自主ルールのハンドブックが変更されていない。何年も前から産観担当者と話をしているが、オオコウモリについての記載で1人1枚ストロボ使用して撮影可能とあるが、これはフィルムカメラ時代のもの。現在はデジタルカメラの使用に代わってきているためストロボ撮影を消してほしい。また、ルールのブラッシュアップをしていく必要があり、そのためには現在現場で活動している若い人たちの意見を吸い上げられる仕組みを、この協議会で作って欲しい。
- 原田  
ルールブックの改訂等編集はエコツアーリズム協議会のルールガイド部会で行っているが、部会まで上がってきていない。
- 佐藤  
それであれば、本件この場をもって共有させていただきたい。
- 島田  
全体構想と謳っているが、村民（全体）に広がっていない。この全体構想は利用するガイドに向けて作っているように感じる。もっと簡素にしてもいいのではないかと。
- 原田  
ガイド制度とルール部会しか残らなかったが、協議会のメンバーはそのまま残っている。そのため農業・漁業関係等、皆が呼ばれてくるが、議題にあった人だけを呼べばいいのではないかと。
- 島田

だからこそ、もっと簡素にしてもいいのではないか。策定した当時と比べ、時代も変わってきている。

○佐々木

キャベツビーチの珊瑚がアンカーで傷ついたケース等、日頃の利用に関わる場所で影響がある場合は、ルールガイド部会で協議している。まずは、全体構想というものがエコツーリズム推進法の中でどのようなものなのか、どのようなメリットがあるか等、説明する必要があるのではないか。

○原田

全体構想策定で何ができるようになったのか、それは「おがぐわの森」が出来ただけ。もっとエコツーリズムに特化してほしい。そのためには、参画団体の精査が必要ではないか。先ほどのオオコウモリの件については、所属機関からルールガイド部会に挙げて欲しい。

○大津

オオコウモリの自主ルールは42頁に記載されているが、今回の改定作業で、そのような部分を意見していただき、修正をかけていきたい。また、本日は個別の修正内容を議論するのではなく、いただいた意見を事務局で集約し、落とし込んだものをベースに、次回以降検討を進められたらと考えている。

○島田

32頁に記載されている保護林制度について、保存地区は「原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる」とあるが、既に人手が入っている場所であり、また、そのまま放置しているとヤギ等の問題で酷くなっていく。全然原生的なものではなく、そもそも書き方がおかしい。

○原田

森林生態系保護林にしたことに無理があった。それを道の上にもかけてしまった。本来、整備はやってはいけないこと。それなのに、外来種駆除をする等、自然の推移に任せていない。

○尾山

林野庁としても危険木処理等出来ることは対応しているのが現状。

○島田

他の地域で全体構想が上手く活用されている事例はあるのか。

○若松

全体構想は、環境省の所管するエコツーリズム推進法に基づいてエコツーリズムを推進する地域で策定していただいている。ポイントとしては、特例（送迎）が認められる他、小笠原では各種法令での保護が行われているので、特に該当しないが、50頁に記載されている特定観光資源があった場合、立入制限措置の条例根拠になる規定が設けられている。小笠原はエコツーリズム

ムの先進地域であり、自主ルール等非常に充実している。他地域としては、参考にしている部分が多々あり、良い手本となっている。

○佐藤

全体構想の意味を理解していない部分があり先程の発言についてはお詫びするが、ルールのブラッシュアップは必要であり、それこそモニタリングのあり方は重要だと思う。また、このような行政の方と話す場や勉強会の場を、もっと現場で活動する人間にも提供出来るようにしていきたい。

○小野寺

そのような意見を、例えば49頁に記載されている人材育成の欄に記載する等、ご意見をいただきたい。

○深澤

現場で活かされる、使えるものにしていかないといけない。現場で活かせる内容にしてほしい。

○大津

皆様は各機関の代表で来られているので、まずは、それぞれの機関にフィードバックして、そして意見を集約していただきたい。

○小野寺

3月末日を目安に意見を提出していただき、それらの意見を事務局で集約した後、この先のスケジュール感等も共有させていただく。ルールブックについては、次年度に向けて予算確保しており動ける状態ではあるが、現在見直しを進めている南島・石門の個別ルールの案件もあり、それが整理出来たら、作成を進めていきたいと考えている。イメージとしては、上半期を目安としたい。また、一部ではデジタルで十分なのではとの意見もいただいております。また、一部ではデジタルで十分なのではとの意見もいただいております。また、一部ではデジタルで十分なのではとの意見もいただいております。また、一部ではデジタルで十分なのではとの意見もいただいております。

○鮎川

Web で参加しているが、発言者の顔や名前もわからず、また、会議資料も共有が分かりにくいので改善してほしい。

○小野寺

大変申し訳ない。次回以降改善する。

○大津

それでは本日の部会はこれで終了する。

以上